

令和6年度第2回
港区総合教育会議 会議録

令和6年8月26日（月）
港 区

令和6年度第2回港区総合教育会議

日 時 令和6年8月26日（月）

開会 午後1時00分 閉会 午後1時45分

場 所 港区役所4階庁議室

出席者

区 長	清 家 愛
教育委員会教育長	浦 田 幹 男
同 教育長職務代理者	田 谷 克 裕
同 委 員	鈴 木 令 奈
同 委 員	中 村 博 太
同 委 員	山 内 慶 太

出席区職員

副区長	大 澤 鉄 也
副区長	野 澤 靖 弘
企画経営部長	荒 川 正 行
企画課長	相 川 留美子
教育委員会事務局教育推進部長	山 本 睦 美
教育委員会事務局教育推進部教育長室長	野 上 宏
教育委員会事務局学校教育部長	吉 野 達 雄

事務局

総務部長	湯 川 康 生
同 総務課長	若 杉 健 次

次 第

1 開 会

2 区長挨拶

3 議 題

港区教育大綱（素案）について

4 その他

5 閉 会

(午後1時00分開会)

1 開 会

○区長

ただいまから令和6年度第2回港区総合教育会議を開会いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

教育委員の皆様におかれましては、ご多用のところご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

なお、この会議につきましては、公開を原則としておりますので、あらかじめご了承ください。

2 区長挨拶

○区長

開会に当たりまして、一言ご挨拶をさせていただきます。

教育委員の皆様には、日々、港区の教育行政に対して、大変なご尽力をいただいております。ありがとうございます。

本日の総合教育会議では、教育委員の皆様と、「港区教育大綱（素案）について」をテーマに意見交換をしたいと考えております。

私は、先の令和6年第2回港区議会定例会での施政方針演説の中で、これからの4年間の区政運営に当たり、5つの重要施策をお示しいたしました。

その第一の施策が、世界一幸せな「子育て・教育都市」です。

教育大綱の策定に当たっては、教育委員の皆様と考えを共有しながら、区民の声をより反映し、港区にふさわしい大綱となるように、進めてまいります。

本日は、第1回港区総合教育会議において、教育委員の皆様からいただいたご意見をもとに、改定が進められている港区教育ビジョンとも理念を共有し、次期教育大綱を素案としてまとめましたので、それぞれのお立場からのご意見をお伺いできればと思っております。

限られた時間ではありますが、どうぞよろしくお願いいたします。

3 協議事項

(港区教育大綱（素案）について)

○区長

それでは、早速ですが、本日は「港区教育大綱（素案）について」をテーマといたします。

まず、説明員から資料の説明をします。

○企画経営部長

それでは、港区教育大綱（素案）について、ご説明させていただきます。

はじめに、資料１をご覧ください。

素案のたたき台につきましては、７月の教育委員会臨時会で一度ご説明させていただいているところですが、これまでにいただきましたご意見への対応を中心に、改めて、本日ご説明いたします。

５月の第１回港区総合教育会議において、区長としての教育行政に対する考え方を、子どもにもわかりやすい形でまとめるということで、策定イメージ案をご説明させていただきました。

そこでのご意見を踏まえ、今回、両面１面となるよう、１ページ目右側に大綱策定の目的や港区政における教育行政の在り方、目指すべき姿について、２ページ目には、その実現に向けた視点を５つにまとめております。

第１回港区総合教育会議では、田谷委員から地域の方や大学との連携も含め、地域との連携の視点から、ご意見をいただきました。

また、寺原元委員からは、家庭との連携という視点から、ご意見をいただきました。

これらを踏まえ、２ページ目のとおり、今回、「地域との連携」を、「みんながつながり『なりたい自分』になれるまち」の実現に向けた視点の１つとしてまとめております。

また、山内委員からは、探求型の力、ＩＣＴに使われるのではなく、もっと新しいことができる人、本当にそうだろうか考える力の大切さについて、ご意見をいただきました。

そこで、１ページ目右側の囲みの１段落目に、「新しい技術がたくさん出てきて、それをうまく使いこなしながら、自分たちの成長につなげることが大切」であることを記載させていただきました。

また、港区に住んでいる人、子どもたちに、区への愛着の醸成、歴史があるまちだからこそのできるまちづくりの重要性という点でも、ご意見を頂戴しておりましたので、ご意見を踏まえ、２ページ目の「誰もがいつまでも身近な場所で健やかに活動できる環境を整備します」という中で、「歴史的価値があるものを守りながら、自分の暮らすまちを愛する気持ちを育てます」と記載させていただきました。

中村委員からは、教員の働き方改革を重点的に、教員になりたいと思う人の養成、また、安心・安全な教育現場の確保といった面で、ご意見をいただきましたので、視点の1つとして、「子どもも保護者も先生も安心できる学びの環境を整備します」と掲げ、教員をはじめ、教育に携わる人たちの働き方改革について、記載させていただきました。

このようにまとめた素案のたたき台につきまして、7月の教育委員会臨時会では、山内委員から、1ページ目右側の囲みの最後の段落にあった「自分の能力や可能性を最大限に発揮できる人」という記載につきまして、「大事ではあると思うが、人によっては最大限発揮し続けるのがつらいこともあるのでは。」というご意見を頂戴しましたので、「自分の能力や可能性を信じられるような環境をつくり」という表現に修正させていただきました。

また、同日に、港区教育ビジョン（素案）のたたき台に対してもご意見をいただきました。

田谷委員と寺原元委員からは、性の在り方について、言及がございました。

大綱におきまして、2ページ目の右上段で、「お互いに多様性を認め、誰一人取り残さない学びを保障します」の記載の中で、「いろいろな性のあり方を含め、みんなが一人ひとりの持つ個性を理解・尊重」することについて、追記しております。

また、港区教育ビジョンに関して、山内委員から、一度社会に出た方の仕切り直しの機会や今の幸せと明日の幸せの両方を考えないといけないといった話もございましたので、全体として、子どもだけを強調した記載ではなく、生涯にわたる学び、ウェルビーイングを意識したことで、同時並行で策定作業が進む港区教育ビジョンとも策定段階からお互いの理念を共有し、整合を図ってまいりました。

以上、説明した内容につきましては、3ページ目に資料1－2としてまとめておりますので、ご覧いただければと思います。

また、今回、素案の作成に当たりまして、18歳までの子どもを対象に、将来どのような大人になりたいか、6月にアンケート調査を実施いたしました。

その結果につきましては、4ページ目以降、資料1－3として参考に報告書（案）を添付しております。

1か月の調査期間で、1,905人から回答いただきました。自由回答でしたので、いただいた回答をある程度グループ分けしております。

結果を見ますと、「思いやりのある人になりたい」という回答が最も多く、それを踏まえ、視点の1つとして、「お互いに多様性を認め、誰一人取り残さない学びを保障します」と掲げるなどしておりますが、本アンケートで子どもたちの将来への様々な思いを知ることができました。

アンケート結果で多かった回答について、1 ページ目の右側下で、「みんながつながり『なりたい自分』になれるまち」の周りを囲むように、掲げさせていただきました。

5つの視点を通じて、多様な区民がつながりながら、それぞれ思い描くなりたい自分になれるよう、そして、より幸せを感じられるようなまちの実現を目指していきたいと思います。

素案の内容に関しまして、説明は以上でございます。

最後に、今後のスケジュールについて、本日の会議でご意見をいただきました後、行政内部で素案として決定の上、港区教育ビジョンとも連携しながら、11 月頃を目途に、区民への意見募集を行っていく予定です。

その上で、来年1月頃に、改めて本会議に区民意見を踏まえた案として、協議させていただき、決定してまいりたいと考えております。

教育大綱（素案）についての説明は、以上になります。

○区長

ただいま企画経営部長から港区教育大綱（素案）について、説明がありました。本日はこちらの素案について、ご意見をお伺いできればと思っております。

それでは、意見交換を進めてまいります。

田谷委員から順にお願いできればと思います。

前回の総合教育会議では、田谷委員から地域の方との連携についてご意見をいただきました。

大綱では、「みんながつながり『なりたい自分』になれるまち」の実現を目指し、「地域で連携して支えます」として、地域における様々な主体との連携について記載していますが、この方向性について、いかがでしょうか。

また、6月に子どもを対象に実施したアンケート調査では、文化・芸術分野をはじめ、将来様々な分野で活躍したいという、想いも知ることができました。

この想いも踏まえ、「みんなのチャレンジを応援し、可能性を最大限に伸ばす」こと、一人ひとりが自分の持つ可能性を信じられる環境を用意することについて記載しておりますが、この点についてもいかがでしょうか。

○田谷委員

まず、説明がありましたアンケートの集計結果の中で、「思いやりのある人になりたい」が3割、それから次いで、「自立した人になりたい」「豊かな生活を送れる人になりたい」がそれぞれ1割ずつということで、港区の子どもたちは大変素晴らしく、私たちのときよりも、より豊かな気持ちになっているのではないかと思います。

また、ある調査において、コロナ禍により、自宅で仕事をしているお父さんが増え、そのお父さんの姿を見て、「サラリーマンになりたい」と言う子どもが増えたと、一時言われたことがあります。

私たちのときは、「野球選手、サッカー選手、オリンピック選手になりたい」と言っていましたが、それはその選手の姿を見ているからで、仕事をしているお父さんの後ろ姿を見られるようになったのは良かったと思います。

そういった意味で、私が申し上げたいのは、子どもというのは、割と身近なところ、身近な状況にすごく影響されるということだと思います。

私の地域の方々に申し上げますと、一般的には、町会・自治会、PTA、青年委員、スポーツ推進委員、民生・児童委員、保護司の方など、身近な大人がいて、総括的に様々なことをしていただいています。もっと身近な大人がいます。

例えば、子どもが学校に行けば、ガードマンの方がいます。受付に行けば、シルバー人材センターの方がいらっしゃいます。

そういう方々の、きめ細かい子どもに対する愛情というのを、私はものすごく感じ、そういう愛情から子どもたちはいろいろな影響を受けると思います。

また、学校での話になりますが、先生には言いにくいようなことでも、ガードマンには話したり、また、放課GO→クラブのスタッフが理解していたりすることがあります。

さらに、今私が申し上げた上の段階として、グローバルに活躍する企業や大学、大使館などと交流を持つことが、日頃の当たり前のことのように進んでいけばいいと思います。

息子の話になりますが、小学校のとき、あるサッカーチームに入っていました。そのチームの約30%が外国籍の子どもでしたので、本当に港区は国際化しやすい状況にあると思います。

こうした状況も十分加味した上で、施策を続けていただきたいと思います。よろしくお願いします。

○区長

ありがとうございます。本当におっしゃるとおりだと思います。

身近な人たちにたくさん囲まれて、そういった人たちの姿を見て、本当に大きな影響を受けていきます。

ガードマンのお話や、企業や大使館なども含め、日頃のことのよう、身近にある環境を作っていきたいと思います。

次に、鈴木委員にお願いしたいと思います。

子どもへのアンケート調査の結果では、「優しい人」「親切な人」「困っている

人を助けられる人」など、「思いやりのある人」になりたいという意見が最も多く見られました。

これらの想いも踏まえ、大綱では、みんながお互いを思いやり、つながり合いながら「なりたい自分」になれるよう、「お互いの多様性を認める」という、多様性の理解、他者の尊重についても記載していますが、いかがでしょうか。

○鈴木委員

田谷委員のお話のとおり、港区の子どもたちは、温かい気持ちを持っている子が多いという意味で、一保護者としても温かい区だと、アンケートを見て思いました。

現在策定中の港区教育ビジョンにおける目指す人間像の中で、「他者を思いやる心を持ちながら、自ら学び考え行動し、心豊かに生きる人」とありますが、やはり、他人を思いやる心というのは、自分が自立していて、きちんとした思いを持った上で、相手を見る視野が広くなければ持てないかと思います。

例えば、地域のことで言うと、ボランティア活動への参加や自分も社会貢献をしたいという気持ち、他者から何かしてもらったときに感謝する気持ち、そういったものが全て含まれたところで、思いやりというのが出てくると感じております。

その思いやりが実際に行動へ移されたときに、いろんな方からお褒めいただき、「あなた優しいわね。」という言葉などをいただくことによって、そこから子どもの自己肯定感が高まっていくと思っております。

また、同じく教育ビジョンにおける基本的方向性でも、「徳」「知」「体」を育む質の高い教育の推進と打ち出しており、自分らしく生きていくために幅広い知識などを養っていくことが必要だと思います。

「徳」の部分では、豊かな人間性や相手を思いやる人間性、又は協調性、さらにはコミュニケーション能力なども求められるのではないかと思います。

「知」の部分では、学習習慣だけではなく、主体的に学んでいく気持ちを持ち続けることも大事で、「体」の部分では、心と体の両方の体力が必要になってくると思います。

A Iなどが出てくる中でも、やはり子どもたちそれぞれがきちんと自分の意見を持って、発することができ、周りの人たちが発したことを許容してくれる環境を、子どもたちに与えられる区であって欲しいと思っております。

○区長

ありがとうございます。

安心していろんな自分の意見が言えること、また、まずは自分がきちんと自立

していることが思いやりにつながっていくということですね。

そういった人間性を有する人に成長するようにしていきたいと思います。

次に、中村委員にお願いできればと思います。

これからの教育には、誰一人取り残さないという行政の姿勢が重要になってくると思います。

そこで、大綱には、多様性の尊重と誰一人取り残さない学びを保障する姿勢を示しましたが、いかがでしょうか。

また、前回の総合教育会議では、中村委員から、教員の働き方改革や、安全・安心な教育環境の整備について、ご意見をいただきました。

大綱では、「子どもも保護者も先生も安心な教育環境の整備」として、みんなが安全・安心できる学びの環境を整備していくことについて記載しましたが、いかがでしょうか。

○中村委員

大綱に、「お互いに多様性を認め、誰一人取り残さない学びを保障します」という文言が入っておりますが、項目として全く異議はございません。

ただ、多様性という言葉で簡単に処理されていますが、今までも多様性があったはずで、今この時代になってやっと注目を浴び、ここまで表に出して「多様性を正面から認めていきましょう。」ということをやっていく中で、一番大事なことは、まず多様性というものがあるということ認識できるかどうかです。

また、子ども側から言えば、自分の多様性をちゃんと自己アピールできるかどうかであり、それをちゃんと拾っていかねばいけないと思います。

ですから、こういったところは、制度としてしっかり準備し、その中で一番大事なところは、やはり現場にいる学校の教員、それから子どもたちを取り巻く周りの大人たちが見て、「この子にはこういう多様性があるのではないか。」とすぐに気づき、フォローしてあげられる環境です。

子どもたちは、なかなか自分では言えないでしょうから、そういうシステムというのは、非常に大事なことではないかと思います。

そうすると、教員側が子どもの多様性をしっかりと気をつけて見つけられる能力を持っているということは、重要になってくるのではないかと考えております。

その教員の力、また、子どもたちに遠慮なく言うことができる現場の環境の作り方が本当に大事かと思います。

「こんなことを言うとみんなから嫌われるのではないか。」などと思ってしまいうから、おそらく言えないのだと思います。

こういった教育現場を作っていないと、なかなかこの目的を達成できない

と思うので、これからが難しいところかと思いました。

また、安心・安全な教育環境の整備について、前回、確かに話したかと思いますが、そのことに関して、「子どもも保護者も先生も安心できる学びの環境を整備します」と教育大綱にも入れていただき、ありがとうございます。

こちらについて、子どもの安心と保護者の安心と先生の安心というのは、その安心の内容が違うと思います。

そのため、子どもにとって何が安心なのか、保護者にとって何が安心なのか、先生にとって何が安心なのかを具体的に考えて、その安心のために何ができるかについて、しっかりした具体策をとっていただきたいと思います。

もちろん、子どもにとっては、学校で心身ともに安心・安全に勉強できる体制が一番大事でしょう。

保護者にとっては、子どもを学校に預けていることで、子どもの教育に関して信頼ができ、それは学校に対する信頼、地域に対する信頼でもあると思います。

あと、先生にとっては、生徒、保護者との関係をスムーズに、自分がやりたい教育ができる環境づくりになると思います。

それぞれの立場から、どんなことが安心につながるのかをしっかりと念頭に置いて、具体的な施策をとっていただきたいと感じました。

以上です。

○区長

ありがとうございます。

おっしゃるとおりで、意見を言うときに安心して、変だと思われたい環境というのは、海外と日本で雰囲気の違いもあると思いますが、オーストラリア派遣などに行ったりすると、先生、お子さんたちが、みんなこんなに自分の意見を言っているのかと、驚いて帰ってきて報告されます。

そういう雰囲気を作っていくために、シンガポール修学旅行の成果もあるかと思いますが、先生たちもそういった環境を知り、日本に持ち帰って自分の教室でもその雰囲気を作れたりすることが、本当に大事だと思っています。

そのため、環境の整備や、子どもと保護者と先生それぞれの安心は違うと思うので、それぞれを考えて施策に入れられるようにできたらと思います。

次に、山内委員にお願いできればと思います。

策定中の教育ビジョンでも、精神的な豊かさを追求するウェルビーイングの向上、生涯にわたる寄り添った学びの支援がポイントと聞いております。

大綱においても、「誰もがいつまでも身近な場所で健やかに活動できる環境の整備」の部分をはじめ、子どもだけでなく、子どもから大人まで、生涯にわたって学び、健やかに活動できるようにすることで、みんながより幸せを感じられる、

「みんながつながり『なりたい自分』になれるまち」の実現を目指すこととしていますが、いかがでしょうか。

○山内委員

生涯に寄り添ったというところで言うと、みんなのライフスタイルがこの 20 年くらいで大きく変わり、例えば、大学を卒業し就職しても、途中で転職したり、あるいは自分のキャリアを新たに作り直していくということが 50～60 年ずっと続けていける社会になってきました。

そういった意味では、自分の将来を柔軟に考えていける、そして、そのタイミングで自分の価値を生かして、仕切り直しをしながらやっていけるよう、サポートできる環境というのは、一つ大事なところですよ。

これは自治体でやることと、大学とかでやることと様々あると思いますが、上手く組み合わせっていくことは、一つ必要なことだと思います。

もう一つ視点で言うと、「誰もがいつまでも身近な場所で健やかな活動ができる環境」という言葉について、別の言い方をすると、いつまでもこの場所に、まず住み続けたいくなる環境があって、さらに、将来まで長く健やかに活動できることが信じられるような安心感を持てる環境ということだろうと思います。

そう考えると、歴史的価値のあるものを大切にするという感覚が、実は非常に大切ではないかと思います。

歴史的な価値を大切にするというのはある意味で、地域の文化の蓄積、空間の記憶と言うのでしょうか。

世代を超えて、空間の記憶を共有できるまちになるということで、それは別の言い方をすると、この大綱の「みんながつながる」という部分の一つの基盤になってくるのではないかと思います。

港区は今、いろんな場所で再開発が進んでいます。もちろん、必要な再開発もありますが、片方で、歴史的価値のあるものが随分失われていっている中で、分岐点かと思っています。

大開発というのは、どの国でもお金さえあればできますが、文化的な蓄積を生かしたまちづくりというのは、基盤がなければできないですから、どちらに行くのかというところの今、分岐点だと思います。

歴史的な価値を大切にする、文化の蓄積を大切にするというのは、そういう地域、国、自治体があって、他の国の人たちから信頼される第一歩ですので、それこそ国際都市としての要件でもあると思います。

加えて言うと、教育委員として関わっている中で、実はこの数年間かなり忸怩たる思いもありました。

高輪築堤も何とか最低限の保存ができましたが、世界の文明史の中で見れば

第一級の歴史資産で、もっと上手に残せたら、世界中の人がきっと「なんて日本はすごい国だ」と思ってもらえることだったと思います。

それから今、話題になっています神宮外苑も、一つの外苑の景観、イチョウ並木、公園としての歴史的景観としての価値があり、日本のスポーツ文化史の中での価値もあります。

そういった価値をきちんと大事にできることで、世界に語るストーリーも持てるわけです。

しかし、単純なディベロッパーの大開発の中に巻き込まれるとそういったストーリーで語るができなくなってしまう。

そういった意味では、歴史的な価値、みんなの空間の記憶と、日常生活の中で散歩やスポーツに親しむ空間などが上手く作ることができれば、「港区は大したものだ」「日本は大したものだ」ということになると思いますので、もう1回ここで踏みとどまって考えていけるといいと思います。

教育ということを考えたとき、教育委員会は教育の立場、ミュージアムや文化財保護の立場で語ることができますが、一方で、まちづくりなどとの組み合わせになると、これは区長部局も一緒に進めなければいけないことですので、こういった機会にもう1回考え直せるとより良くなるのではないかと思います。

その意味で、大綱にも「歴史的価値を守りながら、自分の暮らすまちを愛する気持ちを育てます」と記載されているのは実は非常に大きなことだと思います。

○区長

ありがとうございます。

全く同じ想いで、子どもたちに歴史的価値があるものを残すことは、子どもたちの権利でもあり、ストーリーなどを引き継いでいくのは私たちの義務であると思います。

教育というものが、深みを持った意味のあるものにしていく上で、非常に重要な部分であり、私たち大人がしっかりと価値を認め、理解して、想いを伝えて共有することが教育環境としても非常に重要なことだと思います。

教育委員の方々からこういったご指摘をいただけることは、本当に心強いことで、区長部局も一緒になって進めていきたいと思っています。

最後に、大綱全体を通して、何かご意見はございますか。

○山内委員

この大綱は、大きなビジョン、感覚を共有する第一歩になりますが、どうやって具体的なものに今後つないでいけるかというところが、大きな課題であり、一つ一つ考えていけたらいいと思います。

○区長

そうですね、本当に教育委員の皆様がご指摘くださっている点がそのとおりで、それを反映でき、とても良い大綱になったと本当に感謝しております。

これをしっかりと施策に反映させ、現場で実現できるようにしていくことが重要だと思います。

○田谷委員

こういった大綱などを考えると、現場でのハードルが上がってしまうような気がします。

しかし、今回はそんなにハードルを高くするとかではなく、現場の職員の働き方改革ということも考えて、負担をかけずに進めていける状況がいいと思います。

先日、御成門学園の子どもたちに集ってもらい、生涯学習や生活、スポーツなどの方面で、将来目指すのはどういうところがあるのかを聞いてみたところ、例えば、スポーツ選手、スポーツをずっと愛していきたいという答えがたくさん出てきた中、割と子どもたちはお金のかからないことを考えていると思いました。

例えば、学校の図書館の利用時間を延長してもらったり、放課後に教室を開放してもらったりによって、気軽に仲間と宿題をやったり、i P a dを使いこなすための場所を作ってもらいたいと考えています。

また、オーストラリア派遣、特にシンガポール修学旅行はこれから検証して、より子どもも伸びる方法、やりたい方向を検討できるといいと思います。

大人が考えてもいないようなことを、子どもは割と考えていると強く感じました。

○鈴木委員

娘がちょうど中学校3年生なので、今回のシンガポール修学旅行に行きました。

班によっては、英語と日本語と両方できる学生さんがついてくれて、現地のことを質問しながら、街を回ったそうです。日本語が上手な方がついてくれた班は、結構日本語でしゃべってしまったとのことでした。

全く日本語が話せない方がついた班は、子どもたちにとってはちょっと大変だったそうですが、大人から見るとすごくそれはラッキーな班だったと思います。

英語しか通じないので、英語で話して伝わらないときの悔しさというのは、帰

ってきてからの英語に対する向き合い方も変わってくると思います。

また、日本語が通じた班は、海外の方と日本語の良さや日本の話もできたので、そういったプラス面もあったと思います。

あとは、同じ世代の子との交流がもう少しあったらよかったという感じではありました。

やはり同じ世代で生きているけれども、国が違うことによつての価値観の違いも、もう少しわかって帰って来られるのではないかと思います。

○区長

多くのご意見をいただきまして、ありがとうございます。

大変有意義な会議になりました。

本日いただいたご意見を踏まえ、港区教育大綱の策定を進めてまいりたいと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

4 その他

○区長

本日の会議は以上とさせていただきますが、事務局から何かありますか。

○事務局

この後、ご審議いただいた素案を決定いたしまして、11月を目途に、区民意見募集を経まして、来年1月に開催する予定の第3回の本総合教育会議において、ご審議をいただく予定としております。

よろしくお願いをいたします。

5 閉 会

○区長

ありがとうございます。

それでは以上を持ちまして、令和6年度第2回港区総合教育会議を終了させていただきます。

どうもありがとうございました。

(午後1時45分閉会)